



大はしあたけの夕立

かわはく No.27

CONTENTS

平成18年度企画展 「かわはくコレクション展」……………2
 かわはくの展示から 第1展示室の改装……………4
 3Dシアターの迫力ある映像 パワー全開！……………5
 われら「かわはくボランティア」……………6
 荒川の支流を訪ねる 鴨川 ……………7
 かわはくで学ぼう……………8



平成18年度企画展

「かわはくコレクション - 川にまつわるお宝・大集合 - 」

開催期間—平成18年9月23日（祝）～11月14日（火）

本テーマ展は、当館で開館以来収集してきた川と関わりのある約6000点の資料の内、美術品を中心とした「お宝」（優品・名品）を展示しようとするもので、約180点の資料を一挙展示します。

川にまつわる出土品

ここでは、「魚形埴輪」など発掘調査などで出土した川にまつわる考古資料を展示します。

川を描き、水に親しむ

（1）江戸から明治初期の浮世絵

ここでは、江戸時代に成立した浮世絵をとおして人々の生活や風俗、川との関わりを見ていきます。今回展示する資料の中には「東海道五十三次」で有名な歌川広重が描いた「名所江戸百景」（表紙写真）や「六十余州名所図会」、天保年間（1830～1844）に溪斎英泉が描いていたが、その後、歌川広重によって引き継ぎ完成した「木曾街道（六十九次）」（写真）などの名品も数多く展示します。



溪斎英泉「木曾街道 蕨之駅 戸田川渡」

（2）近代以降の浮世絵・版画

ここでは、明治以降に作成された錦絵や版画を紹介します。この時期は海外から新しい絵画技法などが導入され、社会の変貌による画題の変化により、さまざまな錦絵や版画が作成されています。今回展示する資料は、光と陰のコントラストを強調し「光線画」と呼ばれる画法を生み出した小林清親とその弟子で川越生まれの井上安治（写真）

「風景の巴水、美人画の深水」と表されるほど風景画を得意とした川瀬巴水の作品を展示します。



井上安治「東京真画名所図解 向島桜」

（3）鯰絵・戯画（世間を風刺する）

鯰絵とは、江戸時代において、巨大な鯰が活動する事によって地震が発生するという民間信仰をもとに発行された錦絵で、安政2（1855）年10月2日の夜に発生したいわゆる「安政の大地震」の後、江戸を中心に大量に出版され、大流行となったものです。

一方、戯画とは、おかしみのあるまたは戯れに描かれた絵で、古くは『鳥獣人物戯画』が有名です。江戸時代には葛飾北斎などの浮世絵師も盛んに描いています。その中で、「鳥羽絵」という江戸時代中期に大坂で流行った滑稽な絵があります。手足が異様に細長く、目は黒丸か「一」文字に簡略化され、鼻も低く大きな口を持ち、誇張と動きがあるのが特徴です。

（4）絵巻物に見る江戸風景

ここでは、当館で最も華やかな絵巻物などを展示します。ひとつは、嘉永2（1849）年3月17日、江戸幕府第12代将軍徳川家慶が下総国小金原（現千葉県松戸市）で行った鹿狩りの様子を描いた「小金原鹿狩絵巻」です。また、江戸時代に大名が行った鷹狩りの様子を絵巻仕立てにした「大名鷹狩絵



巻」は画幅も広く、見応えがあります。さらに、隅田川の兩岸の賑わいを描いた「隅田川兩岸一覽」は多種の漁労の方法が描かれるとともに、川岸の風景・様子を知ることができます。

(5) 荒川記録写真

フリーカメラマンとして日本各地の風景や人々の暮らしを撮り続けていた園部澄が昭和25(1950)~昭和35(1960)年までの間に荒川及びその周辺の風景を撮影した記録写真を展示します。

川を語る・川を治める

(1) 地誌・風説書

ここでは江戸時代に編集された地誌やさまざまな伝説や物語を記録した風説書を展示します。主なものとしては、江戸やその周辺の名所を描く「江戸名所図会」、隅田川やその周辺の名勝地などを紹介する「隅田川叢誌」、利根川中下流域の名勝や寺社風俗などを書き、利根川に棲んだ河童が紹介する「利根川図志」(写真)などを展示します。



「利根川図志」

(2) 記録された災害

水害は古くから記録されてきました。埼玉県内においても天安2(858)年の水害記録以来、何十例という水害の記録が書かれています。ここでは、全国各地の水害に関わる記録類を展示します。その中には、中山道美濃河渡宿駅の西にあたる河渡川(長良川上流)の氾濫により街道が浸水し、武家行列の人馬が水の中を行く様相などを狂画風の戯

画で描いた「狂画 鯰坡渡水図」(写真)などもあります。



「狂画 鯰坡渡水図」

(3) さまざまな絵図・地図

ここでは、近世から近代にかけての絵図・地図を展示します。その中で「日光御社参房川御船橋之図」は、江戸幕府将軍が日光に社参する際に臨時に架けられた房川の渡し(現栗橋町・茨城県五霞町間)の船橋を描いています。

(4) 花火の科学

ここでは、花火の製造法などが書かれた「花火秘伝集」や「家法秘伝 花火調合薬法集」など花火に関する資料を展示します。

(5) 川とともに(川と人々との関わり)

ここでは、人々と川との関わりの深い材木運搬や治水工事に関係する絵画や書籍、川や川に架かる橋の番付(ランク付け)などを展示します。

(6) 川に遊ぶ(和竿の美)

ここでは、伝統的な和竿の中から螺鈿などを施した芸術性に優れたものを展示します。

今回展示する資料は、何れも当館の「お宝」と呼ぶに相応しい貴重な資料です。この機会に是非ご覧になって下さい

(文責 展示担当 渡 政和)



かわはくの展示から

第1展示室の改装

平成18年度4月1日からの県立博物館の再編によって、自然史博物館と川の博物館は統合して埼玉県立自然と川の博物館となりました。これに伴い当館の顔とも言える第1展示室は、より来館者に親しみ易いものとなりました。ここでは、新しく変わった第1展示室についてお知らせいたします。

季節展示

第1展示室2階の導線壁面の展示「荒川の表情」は、従来は個別テーマ毎の固定的なものでしたが、現在は壁面が展示ギャラリーとして、季節毎に荒川流域の植物や動物など、自然系の美しい写真パネルや貴重な動植物標本などが展示されます。来館された方々も豊かな埼玉の自然に対して、新たな興味を抱かれるのに違いありません。

ワークショップ

開館以来の装置を撤去し、ワークショップに相應しい水や自然をテーマに、来館者が誰でも気軽に楽しめる参加体験型の空間として生まれ変わりました。水の力、水の不思議、身近な科学など、

季節毎に実験テーマを変えてゆく予定ですので、いつ来ても楽しく勉強できます。

水塚

洪水に備えての先人達の知恵とも言える水塚については、新たに解説パネルを設けて見やすく明るい空間に生まれ変わりました。洪水の被害とそれに対処した人々の知恵についても、来館者の皆様が理解しやすいように展示替えがされました。

未来の荒川

映像機器と風景ボードが撤去され、明るい空間として生まれ変わりました。外光を取り込んで、美しい荒川の河川敷を展示室から臨めるようになりました。反対側の壁面には川を巡る様々な情報や今後の川博の展示予定について、お知らせするコーナーが設置されました。是非、ご覧ください。

季節ごと、月ごとに変わる川の博物館の展示を、どうぞお楽しみください。

(展示担当 栗島 義明)



荒川の表情(上)・ワークショップ(下)



水塚(上)・未来の荒川(下)



3Dシアターの迫力ある映像 パワー全開!

当館では4月からの新生川の博物館として、財団法人日本宝くじ協会の助成を受け展示等の改装や整備工事を進めています。その中でも、今回ご紹介する3Dシアターの導入は目玉のひとつとして取り組みました。

開館以来多くの方に親しまれているアドベンチャーシアターは、荒川やライン川の美しい映像に合わせて座席が上下左右に大きく揺れながら、臨場感あふれる川下りをスリル満点に体験できるものとして人気を博しています。

これにさらなる魅力を付け加えることが以前から検討されてきました。その結果、3Dの導入が決定しました。

自然と川や水をテーマにした当館は、夏休み期間中が一年でもっとも利用者の多い時期です。この時期に合わせて工事を行い導入を図りました。そして、夏休みに訪れてくる子どもたちをターゲットにした上映メニューは、慎重に検討を重ねながら選びました。

1本は夏に開催される特別展「巨大昆虫の世界」とタイアップさせた「世界のクワガタ・カブトムシ」でした。もう1本は子どもに人気のある恐竜の世界を冒険する「3Dザウルス」でした。

「世界のクワガタ・カブトムシ」

東南アジアや中南米など世界各地に棲む珍しいクワガタやカブトムシが次から次へと紹介されていきます。ギラファノゴリクワガタ、タラントスツヤクワガタ、ネプチューンオオカブト、そして一番人気のヘラクレスオオカブトなど子どもたちの人気者が勢揃い。

そして、ムシたちのバトルが始まります。スペクタリリスツヤクワガタVSグラントシロカブト、コーカサスオオカブトVSヘラクレスオオカブト、エレファスゾウカブトVSヘラクレスオオカブトなど、子どもたちにはおなじみのムシたちが大画面から飛び出してくるたびに歓声が上がったり、中には捕まえようとして手が動いたりしていました。

「3Dザウルス」

フルCG立体映像で蘇る恐竜の世界を迫力たっぷりに描いたアニメーションです。

リッキー船長の操縦する宇宙船に乗り込み、太古の世界ディノパークへ出発します。宇宙空間へ飛び出し時空トンネルへ、いざ、突入!

そして、ジュラ紀の地球へ。そこには巨大草食恐竜のブラキオザウルスが、続いてステゴザウルスに空飛ぶ恐竜プテラノドンが登場します。宇宙船はさらに海の中に進んでいきます。そこには、プレシオサウルスが悠々と泳いでいます。

もっともっと深海に潜ります。するとそこは突如白亜紀の地球が現れます。再びプテラノドンが登場、息つく間もなくパラサウルスが、そしてついには最強のティラノザウルスが登場し、みんなが乗る宇宙船の操縦桿がかみ砕かれてしまい、とうとうリッキー船長も操縦不能に。しかし、やっとのことで危機を脱出し元の地球へ無事に帰還することができ、みんなホッと。

ある時はステゴザウルスに踏みつぶされそうになったり、ティラノザウルスに体当たりされながら、大画面から飛び出してくる恐竜たちを体ごとよけたり、キャーと叫んだり、時には泣き出してしまう子どももいました。

シアターから出てくる子どもたちの中には、興奮冷めやらぬ表情でお父さんやお母さんと話し合っている姿も見受けられました。

この夏、子どもたちはどんな思い出を残して過ごしたのでしょうか。この3D映像の思い出も、そのひとつに付け加えられたとしたら導入の価値は十分あったといえるのではないのでしょうか。

シアターのアンケート調査からも、今回の3D導入はたいへん好評でした。既存の番組「荒川ささ舟の冒険」「ライン川1320kmの旅」に付け加えるかたちで楽しんでいただきました。もっと観たかったという声も多くありました。

9月以降も3Dザウルスをご覧いただけます。ぜひ一度迫力ある映像を体験してみたいかがでしょうか。今後も魅力あるメニューを用意して皆様をお待ちしております。

(展示担当 岩本 克昌)



われら「かわはくボランティア」

川の博物館は平成9年8月1日に開館し、平成11年にはボランティア制度が導入されました。平成14年11月には、ボランティアの自主的な組織「ボランティアの会」が発足しました。今まで、延べ79人の方が「かわはくボランティア」として登録し、おもに「荒川大模型173」の展示解説や「かわはくイベント」などに参加してきました。現在の登録者は20名で、毎月1回の定例会で情報交換や活動調整をしています。

ボランティアへの動機は、各自が、川に限らず、動植物、地勢、歴史などさまざまな興味を持っていて、各自の興味を生かしつつ、博物館で、こんなことを知りたい、体験したい、手助けがしたい、役に立ちたい、という気持ちを持っていることです。

ボランティア活動の実際としては、中心となるのは、荒川の1/1000の立体模型「荒川大模型173」の解説です。この大模型は荒川の全般をつかむには、非常に良くできた模型です。住む地点が荒川とどのように関連しているのかがよく理解できます。荒川源流点から河口点までの173kmのどの地点でどんな解説をしようかと一応の心づもりはしているのですが、できるだけ来館された方たちとの会話をもつよう心がけています。洪水の経験などを話して下さる方もいます。それらは、生の情報として受け入れます。小学校の3、4年で荒川の勉強をするようです。子どもたちは、解説をよく聞いています。質問はドキッと鋭いものがあります。私は「川を汚さないようにしましょう」と、解説をしめくくりにしています。来館された方の記憶に一つでも、二つでも、何かが残ればと思って解説しています。



荒川大模型173の解説

「川の記念日」、「かわはく夏祭り」、「県民の日」には、子どもたちを対象に、簡単なものづくり、遊び、「荒川大模型173」のオリエンテーリングクイズを行っています。それらのイベントには3ヶ月前から準備を始めています。



かわはく夏まつり

「荒川ゼミナール」、「野外研修会」への参加も楽しみの一つです。これらの経験は、大模型の解説に非常に役に立っています。特に、現地で見ただけで聞いたことは、トピックスとして解説の中で伝えることができます。そして、解説にふくみと深みが増し、解説を聞いた方たちに納得していただけるようです。ボランティアの会では、自分たちで「野外研修会」を企画し、自主的に施設・史跡を訪ねています。



野外教室

「わくわくサタデーミュージアム」へのお手伝いも楽しみの一つです。子どもたちの目の動き、指の動き、作品には目をみはるものがあります。「やったぜ!」という得意顔は、こちらも「やったね!」言いたくなります。

ボランティア活動をとおして感じることは、気象情報や時々見る荒川の様子に注意するようになったことです。川面を見ていると「川に歴史あり、川と人の生活は切り離せない」と感じ入ります。ボランティア活動には健康の維持が不可欠です。そのために、朝夕の散歩に励んでいます。

(ボランティア 田中 実)



荒川の支流を訪ねる

かもがわ
鴨川

鴨川（かもがわとも言われる）は、桶川市を源流とし上尾市を経てさいたま市の秋ヶ瀬橋付近の昭和水門で荒川左岸に合流する。流路の全長は、18.76km、流域面積63.69km²埼玉県が管理する一級河川です。

名前の由来は、はっきりとはわかりませんが現在のさいたま市別所町、奈良町の旧地名「加茂宮」を流れる川からきたとする説があります。

途中で、浅間川、新川、鴻沼川等が合流しています。河川法上の基点は上尾市の上尾環状道路にありそれより上流は、都市排水路として上尾市の



鴨川起点

管理となっています。

鴨川は、元来上流部は灌漑用水として利用され、下流は排水路として機能していました

が、流域の上尾市とさいたま市の都市化にともない、排水量が増えました。また、道路のアスファルト化などによる雨水の不浸透化と遊水地としての役割を果たしていた低地の宅地化が進行したため、雨水が一度に鴨川に流れ込みやすくなったため、洪水が起きやすくなりました。

昭和61年と平成3年に起きた洪水では流域に大きな被害が出ました。このため埼玉県では河川激甚災害対策特別緊急事業（緊急かつ重点的な治水対策を実施する事業）として河川改修事業が行われました。工事の内容は、洪水の際に一時的に水を貯める調節池を2箇所作ることと、川底を掘り下げさらに川幅を今までの約3倍に広げて、大量の水がスムーズに流れるようにすることでした。

鴨川は近世初頭まで、さいたま市西遊馬付近で二手に分かれた荒川の流れのうち、大宮台地西側を流れる部分を南下する荒川の一流路でした。この流路は、さいたま市大久保の埼玉大学付近を東に流れ、別所沼や白幡沼近くを東に進み川口市、

鳩ヶ谷市を経て古利根川に流れていたと言われ、この流路は古荒川と呼ばれています。

しかし、この流れは水害を多く起こしていました。この水害の解消を行ったのが伊奈備前守忠次です。忠次は慶長年間（1596～1614）にさいたま市土屋で大囲古堤と呼ばれる堤防を築き、荒川本流と鴨川を切り離しました。現在ではこの堤防の面影は残っていません。

忠次はこの堤防工事と同時に、現さいたま市側



備前堤



関沼

ヶ谷戸に「備前堤」を築き関沼（林光寺沼）と呼ばれる溜池を造成して灌漑用水に利用しました。現在は、野生動植物とふれあえる多自然型整備事業が行われ、湿地帯には木道などが設置されています。

この関沼の東側には、縄文時代前期の地点貝塚である側ヶ谷戸貝塚と古墳時代後期の側ヶ谷戸古墳群があり、いずれも県選定重要遺跡になっています。（教育普及担当 西口 正純）

12月

2/土 わくわくサタデーミュージアム「葉っぱのふしぎとクリスマスカードづくり」

時間：14:00～ 定員：32人（申込順）**☎** 費用：100円
内容：葉脈を色染めして、クリスマスカードを作ります。

2/土～17/日 荒川図画コンクール

内容：国土交通省と連携した展覧会です。

7/木 野外教室「荒川河口を見る」

時間：13:00～16:00 定員：30人（申込順）**☎**
費用：100円（保険料）

内容：巡視船に乗り、荒川と隅田川の下流域を見学します。

10/日 魚の飼い方講座！

時間：13:30～15:00 定員：25人（申込順）**☎** 費用：100円
内容：水槽のセッティングから魚の管理の仕方を教えます。

16/土 映画会「地球SOSそれゆけコロリン」

時間：13:30～14:30 定員：80人（先着順）
費用：無料 内容：子供向けの映画です。

17/日 荒川ゼミナール、
「平賀源内と江戸の好奇心」

講師：鈴木一義氏

時間：13:30～15:30

定員：80人（先着順）**☎**

費用：無料

内容：平賀源内に関する講座です。



1月

14/日 映画会「人魚と海賊船」

時間：13:30～14:30 定員：80人（先着順） 費用：無料
内容：子供向けの映画です。

1/20/土～2/4/日 第26回川の写真コンクール

内容：河川環境管理財団との連携事業です。

20/土 わくわくサタデーミュージアム「色が変わるふしぎな水」

時間：14:00～ 定員：32人（申込順）**☎**

費用：100円

内容：かき混ぜるだけで色が変わる水溶液を作り、その不思議さを体感します。

24/水 ようこそミクロの世界へ 顕微鏡操作研修

時間：9:30～16:30 定員：32人（申込順）**☎**

内容：電子顕微鏡を使って教材を作成（総合教育センターと共催）

対象：小・中・高教員

28/日 水槽ディスプレイ講座

時間：13:30～15:00

定員：25人（申込順）**☎**

費用：100円

内容：川原の石や流木などを使ったディスプレイをアドバイスします。



かわはくで学ぼう!!

イベント情報コーナー

2月

3/土 わくわくサタデーミュージアム「手づくり望遠鏡で野鳥観察」

時間：14:00～ 定員：32人（申込順）**☎** 費用：300円
内容：自作望遠鏡で、館周辺の野鳥を観察します。

7/水 ようこそミクロの世界へ 顕微鏡操作研修

時間：9:30～16:30 定員：32人（申込順）**☎**

内容：電子顕微鏡を使って教材を作成（総合教育センターと共催）

対象：小・中・高教員

11/日 映画会「雪渡り」

時間：13:30～14:30 定員：80人（先着順） 費用：無料

内容：子供向けの映画です。

17/土 わくわくサタデーミュージアム「静電気のふしぎ」

時間：14:00～ 定員：32人（申込順）**☎** 費用：100円

内容：静電気の力を使って、楽しい遊びをします。

2/24/土～3/4/日 2006年の国環境地図作品展

内容：立正大学と連携した展覧会です。

25/日 魚の飼い方講座

時間：13:30～15:00

定員：25人（申込順）**☎**

費用：100円

内容：水槽のセッティングから魚の管理の仕方を教えます。



3月

3/土 わくわくサタデーミュージアム「石の中身を観察しよう」

時間：14:00～ 定員：32人（申込順）**☎** 費用：100円

内容：石の断面を磨いて、その様子を観察します。

11/日 映画会「金太郎・わらしべ長者・かもとりごんべいさん」

時間：13:30～14:30 定員：80人（先着順） 費用：無料

内容：子供向けの映画です。

17/土 わくわくサタデーミュージアム「ふしぎな氷の世界」

時間：14:00～ 定員：32人（申込順）**☎** 費用：100円

内容：液体窒素を使って、-196℃の世界を体感します。

3/17/土～5/6/日 企画展「水辺のまつり」

内容：古代から現代に至るまでの川や水辺に関するまつりの資料を展示します。



ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】 行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。 **☎印のついた行事は事前申込みが必要です。** 電話またはFAXでお申し込みください。 **定員になりしだい締め切ります。** 川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL / 048-581-8739(学芸) FAX / 048-581-7332

R100

古紙回収率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOY INK

2006年10月18日発行